

西村大臣記者会見要旨

令和3年3月8日（月）18時48分～19時23分（35分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせしました。私から2点申し上げます。まず、経済指標を2つ発表しております。1つは、1月の景気動向指数であります。一致指数、91.7ということで、過去3番目の上昇幅となっております。過去最大の上昇幅が去年の10月。それから、2番目が去年の7月ということで、この伸びでありますけれども、そして今回プラス3.5ということで、この水準になっております。まだ2月の水準には届きませんが、去年の3月よりかは良い水準になってきています。これは、景気動向指数は幾つかの指標を機械的に当てはめていっておりますけれども、今回、ほとんどの指標がプラスになっております。特に輸出が増加をする中で、半導体製造装置、あるいは電子部品などの出荷が増加して、鉱工業生産も幅広い業種で増加をしておりますし、雇用面でも有効求人倍率が上昇したことなどが背景にあります。

一致指数の最後のページを出してください。この10の項目で、必ずしも景気の動向を表していない部分もあるということで、サービス産業であったり、そういったところが入っていないということで、見直しを引き続きやっておりますけれども、ここにありますように多くの指標でプラスとなっております。機械的に当てはめて、今回、基準に基づいて上方への局面変化に上方修正しております。先月は下げ止まりということでありましたけれども、上方への局面変化ということでもあります。

それから、景気ウォッチャーですけれども、これを見ていただきますと、御案内のとおり、青が現状判断、赤が先行き判断、緑が水準の判断ですけれども、まず現状判断のブルーは41.3ということで、これを見ていただいたら分かりますとおり、去年の1月、コロナ前とかなり近い水準まで戻ってきています。上げ幅が過去3番目の上げ幅ということでありまして、2月はこういう水準になっていると。ただ、現状の水準判断は、このレベルですので32.6。上げ幅は過去4番目の上げ幅でありますけれども、5.6ということで高いんですけれども、この水準は去年の秋よりは水準判断は低く、去年の2月を少し上回るぐらいの水準だということでもあります。

他方、先行きは過去3番目の上げ幅で50を超えてきました。先行きが50を超えるのは、去年を見る限りはないわけでありまして、先行きに対する期待感が表れています。

そして、これをどう見るかでありませうけれども、景気全体の持ち直しの基調が続いているということを示していると考えています。特に輸出増を背景とした生産の持ち直しが大きく寄与しているものと思いますけれども、この先行きの見方の改善が特に大きいわけですね。50を超えていますけれども、このことについては、1つは緊急事態宣言の解除後への期待、一部の地域で解除されているということ、首都圏を除いて。それから、ワクチン接種が進み始めたこと。こういったことを含めて持ち直していくことへの期待の表れと見ています。

それから、毎週見てもらっています週ごとの消費額のインデックスですが、いつも申し上げているとおり、グレーのゾーンは過去3年の幅を示しています。直近、この2月25日から3月3日ということで、解除した地域にとっては緊急事態宣言の最後の局面、それから首都圏にとってはまだ継続するわけですが、このレベルにあって、これが1万4,700円ということで、2018年の最小1万5,200円を、少し下回るものがあります。ただ、その前の週は1万4,900円ということで、最小の1万4,100円を上回っています。このグレーのゾーンの範囲内ということになります。

これはよく申し上げていますが、昨年の緊急事態宣言のとき、4月、5月の消費が5月の連休でぐっと増えるときに、このレベルで幅広い業種、国民の多くの皆さんに自粛をお願いしましたので、過去3年の幅をはるかに下回る状況で消費を抑えることによって、経済を止めることによって、緊急事態宣言によって感染を抑えたということ。そして、昨年の夏も、お盆の時期に様々な自粛をお願いしまして、緊急事態宣言はなかったですが、過去3年の幅よりもかなり低い消費水準で自粛をお願いしたということで、感染をある程度抑えた。秋以降は、非常に経済は良かったわけですが、12月、過去3年の幅よりかは低いんですが、例年通りに飲食を含め消費が幅広く行われた。このことが結果として感染拡大につながったという裏返しでありませうけれども。そして、1月になって緊急事態宣言を発出して、過去3年の幅の下の方、あるいはそれを下回る水準で推移しています。これは、去年の緊急事態宣

言とは違って飲食にかなり焦点を当てた対策を講じていますので、飲食の皆さんは大変厳しい思いをされていますけれども、幅広い業種に休業や時間短縮をお願いするのではなく、焦点を絞ったということで、過去3年の幅の下の方で推移しているというのが現状であります。

この2月から、1月はかなり低かった分が2月に入って少し上向いているところが、これは経済の立場からすると良いわけですけれども、逆に感染を抑えなければいけない局面で。そういう観点から見ると、少し人出が増えてきて、感染が下げ止まっている状況にあるのかなということでもあります。この人出の多さとの分析は引き続き進めているところであります。

いずれにしても、申し上げたいのは、今の局面、とにかくまずは感染拡大を抑えていくことを最優先に取り組むということでもあります。と同時に、そうした中でもこういう全体とし、期待感があつたり水準が上がってきている、あるいは水準も非常に良くなってきましたけれども、こうした中でもサービス業、飲食・宿泊の方々を中心に厳しい状況にあるのも、それ以外にもまたいろんなデータで分かっていますので、しっかりと協力金であつたり、あるいは一時支援金であつたり、今日から受け付け、申請が始まっていますけれども、あるいは緊急小口金など、厳しい状況にあるの方々への支援、それから雇用調整助成金、休業支援金、これもいずれも、パート・アルバイトのシフトが減った分も含めて1人最大月額33万円まで国が全面支援をするということも制度としてありますので、こういったものを活用していただいて、厳しい状況にある方を、事業、雇用、生活をしっかりと守っていければ、支えていければと考えています。予備費の2.7兆円もありますので、機動的に必要な対策を講じていければと思いますし、総理が今日、答弁でもされましたように、女性の非正規の方、あるいはひとり親の方、こういった方々をはじめ厳しい状況にあるの方々への支援、特に孤独や孤立をしておられるの方々への支援も含めて、今月中旬にも関係閣僚会議を開いて対策を取りまとめるという方針を述べられておられますので、しっかりと現状を分析しながら必要な対策を講じていければと考えています。

それから、コロナの方の感染状況でありますけれども、首都圏で下げ止まっている傾向が強くなってきています。埼玉・千葉の病床も引き続き40%台、特に千葉が46%、47%と、この辺り

でまだ2、3日推移をしています。ある意味でギリギリステージⅢに入ってきたという段階ですので、これをしっかりと下げていくという、ステージⅢを確実なものにしていきたいと。そのための2週間でありますので、病床確保、厚労省を中心に引き続き対応しますし、感染を抑えていければ。これが遅れて減ってきますので感染を抑えなければいけないんですが、ここに来て、先週、今週で1.03とか、こういった横ばい、微増、東京・神奈川でも0.9台ですので、本当に横ばいの状況が首都圏で続いているわけでありまして、10万人当たりの数値は15人を切っていますのでステージⅡになってきていますが、これに遅れて、こちらが改善をしてくるわけでありますので、引き続き感染防止対策を徹底をしてかなければならないところであります。

特に、朝の人出がまたちょっと改善していますけれども、4割を超えてきた部分が、38%でありまして。これは休日の直近7日の数字まで入っていますが、昼の3時、新宿駅、ブルーは去年の12月と同じような水準になってきています。横浜駅、これも去年の12月と同じような水準。渋谷センター街も同じような水準。私も土曜日の夕方、渋谷センター街を見ましたけれども、かなりの人が出ていました。飲食店も、夕方の段階ですから、6時頃ですから、当然、飲食される方がおられるわけですが、かなりの人が出ていくということがお分かりになると思います。緊急事態宣言は続いておりますので、21日まで続いていますから、是非とも、だんだん陽気が良くなるわけですが、不要不急の外出自粛はしていただく。また、企業の皆さんもテレワークできる業種はしっかりとしていただければと思いますし、明日、経済界に改めて要請をしたいと思いますので、夕方になると思いますが、調整をしているところであります。

20時までの時短の協力も、多くの店舗、97%、98%の事業者の皆さんに御協力いただいていますけれども、御協力いただけない店舗に東京都・神奈川県からは文書で要請もなされていると聞いています。是非、応じていただいて、何とでもここで感染を抑えたい。そうしないと、また長引いてしまいますので、何とでも抑えていく。今日行動しても、その行動が表れるのは、今日感染してしまったら、潜伏期間から発症して、そして検査を受けてとなると10日後、2週間後になってしまい

ますので、今日行動して、やっと緊急事態宣言の終わり頃改善が見られるわけであります。

これまでも3密の回避とか、マスク・手洗いを徹底していただいていますけれども、引き続きそのことをお願いしたいと思います。8時までの時短も是非お願いしていただいて、やっぱり我々の分析で影響が大きいのは夜の人出であります。夜の人出が一番、減少させるのに寄与度が大きいということがこれまでの分析で分かっています。8時までの時短、皆さんの御協力でもここまで減らしてきましたので、新規陽性者の数は減少できていますので、引き続き緊急事態宣言の下でありますので、御協力をお願いしたいと思います。

私からは以上です。

（問）先週の金曜日に聞けなかったので、コロナ室の過重労働のことについて2点伺いたいと思います。

今日の国会でもいろいろやり取りがありましたし、加藤官房長官の会見でもありましたけれども、改めてコロナ室の月400時間に迫る最長の労働の方がいたり、あるいは平均120時間を超える時間外労働があったことについて、大臣自身のマネジメントには何らかの問題がなかったのかどうか、御所見を伺いたいと思います。

もう1点はテレワークについてなんですけれども、大臣は今日、国会の答弁でも、コロナ室でテレワークを今週から始めるという御発言がありました。これまで民間企業に対しては「言い訳は通じないから」ということをおっしゃっていましたがけれども、コロナ室についても7割の出勤削減というのを目指されるのでしょうか。教えてください。

（大臣）まず1点目ですけれども、新型コロナウイルス感染症への対応ということで、まさに去年の春から、もう1年になるわけですけれども、まさによく分からない感染症ということもあり、国家的な危機となった。緊急事態宣言を去年の春に発出して、その後も、5月の終わりに解除しましたがけれども、6月に入って新宿で感染が広がってきたということがあって、最初の第1日曜日に私は初めて新宿区長とお会いしたと思いますけれども、6月7日だったかなと思いますけれども、その頃から新宿への対応ということが始まったわけであります。その後、冬の感染拡大、この間、本当に大変な状況の中で、まさに膨大

な業務に対応する必要があったということで、コロナ室の皆さん、本当にこのコロナを何とか抑えたいと、そんな思いで膨大な作業を必死の思いで対応してくれてきたと思っています。大きな負担がかかっていたと思いますし、そのことは日々、私自身もどうしても夜遅くまでになることもありましたが、土日も緊急で対応することもありましたが、そういったことを含めて多大な負担をかけてきたこと、本当に必死でやってくれたことに改めて感謝申し上げたいと思います。

特に年末年始、特措法の改正は、このチームはまさに年末年始を返上で対応してくれていましたし、1月2日にいろんな知事とお会いをして緊急事態宣言に向けた議論はいろいろ行ってきたわけであります。法改正もありました。予算委員会も始まった。緊急事態宣言の発出もありました。そういう意味で、1月は本当に大変な時期でありまして、この時期に残業時間がかかなり多くなったということでもあります。改めて多くの負担がかかった皆さんに感謝を申し上げ、またそうした過重な負担に対して私から本当に申し訳なく思っております。

その上で申し上げれば、1つには、金曜日に申し上げましたけれども、全体を統括する事務の責任者である吉田室長とかなん意見交換をしまして、業務分担の見直しとか、あるいは特定の人に業務が集中しているのではないかということを確認してもらって、それを上手く再分担していくこと。あるいは、カバー性というか、交代性というか、1人の人しか分からないんじゃないかと。それをカバーする体制とか、あるいは週末は絶対に休むようにと。絶対と言っても、もちろんいろんな緊急なこともありますので、それに対応しなければいけない時があるんですけども、その時も人数は最小限にするようにといったことを、改めて吉田室長に強く指示いたしました。

と同時に、和田政務官にも話をして、私自身が若い職員のこととも、毎日会うわけでもありませんし、なかなかそこまで目が行き届かない面がありますので、和田政務官に全体の業務管理のチェックをしてもらうように指示したところであります。

そして、本日ももう一度、和田政務官と吉田室長と、それからコロナ室は一つの役所みたいなんですけれども、実は一つの局のようなものでありますので、吉田室長の下は審議官なんですよ。1人だけ会議に出て、どうしても出られない審議官がいましたけれども、それ以外の審議官全員に大臣室に集まっても

らしまして、そこで超過勤務を削減すること、そのための業務効率化、今申し上げたカバー性とか、交代性とか、こういったことの取組を改めて指示いたしました。幾つか提案も出てきておりますので、それについて和田政務官の下で話し合ってもらって、それから特に超過勤務の多い職員の話をよく聞いて、それぞれの担当の審議官、自分の職務の担当の中でカバーし合うような仕組み、体制を作ってくれということをお願いしましたので、そういったことを早急に進めてもらうことにしました。

私自身も様々な国会対応とかありますので、私自身もできるだけ職員のそうした負担が多くならないように、これまで以上に配慮していきたいと思います。会見も今は、土日は去年の8月の月上旬で最後にして、土日は基本的には会見を行っておりませんし、最近では閣議のある日、あるいは会議が多いものですから、成長戦略会議とか、諮問会議とか、月例経済とかがあつた時は会見をしますし、今日のように指標が幾つか出たときは必要だと思えますけれども、この記者会見の幹事の皆さんと相談して、この会見も、別に私は逃げるわけではありませんけれども、必要なことはしっかりと皆さんにお伝えしたいと思えますし、コロナもいろいろな動きがありますので、動きがあつたときはお伝えをしたいと思えますけれども、国民の皆さんにもできるだけ正確な情報を知っていただきたいと思えますので、進めたいと思えますが、職員の負担も考えて是非相談しながら進めさせていただければと思います。今申し上げたように担当している会議も多いですし、指標も幾つか出ますので、それなりにしなければいけないと思っておりますけれども、状況を見ながら対応したいと思えますので、よく相談をさせていただきたいと思っております。

それから、テレワークについても、どうしてもこれまではコロナ対応ということでは緊急を要することが多かったこと、あるいは関係者、関係省庁、それからある意味で現場での対応と言うか、都道府県との調整も、1都3県、東京都はある意味近いですから、割と頻繁にやり取りもしてきましたけれども、もう一度やれないのかということも改めて指示をいたしました。それで、実は今日からテレワークを開始いたしまして、一遍になかなか全員というか多くの人々が、というわけにはいかないんですけども、今週から人数を少しずつ増やしながらやればと思っておりますし、計画的にやればと思っております。少

し状況を見ながらではありますし、緊急事態宣言の今度は状況を日々、1都3県と連絡を取り合っていますので、そういった状況も見ながらあります。むしろ緊急事態宣言の下でもありますのでテレワークを増やさないといけないという、先ほどの話の通りですので、少し計画的に増やしていければと考えていますが、なかなか様々な対応、関係省庁、都道府県、それから緊急的ないろいろな動きに対しての対応もありますので、みんながみんなできるわけではありませぬけれども、この間も申し上げた、一つにはデータ分析をコンピュータを使ってやっているところですね。個人情報もあるので全部が全部というわけにいかない部分もあるかもしれませぬけれども、データの解析、あるいは研究者、シンクタンクとか、大学の研究者と様々なやり取りもしています。こういった方々、それからデータの分析、国際的ないろいろなデータを分析する、情報を取ったり、こういう職員もいますので、そういった方から少し広げていこうと、始めていこうということからスタートしております。

エッセンシャルワーカーと言うにはちょっとはばかれますけれども、かなり緊急現場の対応もある職員も多いので、なかなかテレワークを7割というのは難しいかなと思います。事務的にそういったデータの整理とか連絡をする業務はかなりの部分をできるんじゃないかと思っていますので、そういった試みを今日からやり始めたところでもあります。

5日の会見は夜遅くでありましたので私の発言のみにしましたけれども、こういった形で私はいつでも質問を受けますので、何か逃げたりしたということではありませんから、是非、御理解いただきたいと思っております。

(問) 1都3県の緊急事態の延長に関してなんですけれども、神奈川県黒岩知事が、西村大臣に延長を要請するかしらないかということにおいて、小池都知事とのやり取りをテレビ番組で暴露するようなことがございまして、知事間の足並みの乱れというのが明るみに出ていますけれども。大臣として把握なさっているこの間の経緯と、またこれが事実とすれば、小池知事がコロナ対応を政局的に利用しているのではないかという批判も出ているかと思うんですが、御所感があればお願いしたいんですが。

(大臣) まず、1都3県でそれぞれの状況は違いますので。前

にも申し上げたと思えますけれども、神奈川はかなり改善してきたわけです。ですから、黒岩知事は神奈川県だけだと解除できる水準であるかもしれないけれども、1都3県で一体的に考えるべきだという、その趣旨の発言をされていたと思えます。1都3県で、生活圈や経済圏がありますから、まとまって判断していこうと、統一、整合的な行動をしていこうと、こういったお気持ちは4人の知事は持っておられたと思えますし、常に持っておられると思えます。ただ、個別の状況がこういうことで多少差があるという中で、それぞれ温度差もあったのかなど。私もそれぞれの知事ともいろいろお話をしていますし、事務的にもいろんなやり取りをさせていただいていますけれども、そういう印象を持っています。

ただ、誰が主導権を取るとか、誰の手柄にするとか、手柄になるのかとか、そういったことではなくて。とにかく4人の知事、そして国がしっかりと連携をして、今のコロナを何とか着実に確実に抑えていく、ステージⅢというものを確実なものにしていくということが何より大事でありますので、そういったことを考えずに。私自身は、言わばいろんな意味で憎まれ役のような格好になっていますけれども、そんな誰が主導権とか、誰が手柄とか、そういうことではなくて、とにかく連携して取り組んでいくことが大事だと思っています。それぞれの知事、それぞれの域内の責任者として重い責任を持っておられますので、それぞれの知事の思い、考え方をしっかりと受け止めながら、4人の知事と連携して、今の難しいコロナ対策、特に下げ止まってきている局面でありますので、何とかワンボイスで、これは専門家の皆さんとも一緒になって、しっかりと皆さんに共感を持っていただけるようなメッセージを発して、そして対策もしっかりと取っていたければと考えているところです。

（問）感染状況についてお聞きします。

1週間の移動平均で見ると、全国の新規感染者数が、ここ数日間で増加に転じております。これについての大臣の受け止めと、要因をどういうふうに考えているのか。また、こうした事態を受けて追加の対策などを講じるお考えはありますでしょうか。

（大臣）今、御指摘がありましたけれども、全国の数字、病床は22%ということ、ほとんどステージⅡに近い状況で、陽性

率も2.2、それから1週間の10万人の感染者数も6人ということ、非常に少ない数字、重症やベッドも全国的には9%ですのでかなり低い数字ですが、先週比で1.02ということ、横ばいから少し微増の感じがしています。この点は、しっかりとメッセージを発信しなければいけないと思っております。この3月、4月は行事が多い時期でありますし、卒業式や入学式、あるいは花見、それに伴う謝恩会や宴会、これは是非控えていただくようにということで、専門家の皆さんからも、我々からも発信をしておりますし、また、文科省などを通じてお願いしているところであります。

そして、これまでと同じような飲食のやり方でやってしまうと、12月と同じように感染が拡大してしまう。つまり、アクリル板とか換気の良い場所を選ばないと、同じように長い時間飲食をすると、緊急事態宣言を解除された地域は21時までと要請していますが、それ以外の地域は、一部にももちろん時短の要請をやっている県がありますが、多くは遅い時間も営業をやっているわけでありますので、同じように長い時間、大人数で飲食をするようなことをやると、当然12月のようなことが起こってしまいます。現に飲食のクラスターも全国各地で幾つか出ています。この間、お示ししたのは昼カラオケでありましたけれども、これは高齢者の皆さんが全国各地でいろんなところで昼カラオケ、あるいはカラオケ喫茶で感染、クラスターが生じているということがあります。夜の飲食でも、何人かの飲食店で、あるいは家庭での食事会で感染が広がっているクラスターもこのところ報告されています。ですから、とにかく飲食がマスクを外すという意味で一番リスクが高まりますので、アクリル板、換気が良い店、そして会話のときはマスクをするということを是非徹底していただきたいと思っております。

事業者の皆さんも、なかなか大変な状況ですけれども、是非、持続化補助金とか換気環境省の補助金が使えますので、私どものホームページから見られますから、アクリル板とか換気を良くする補助、こういったものを是非活用していただいて。同じようにやると必ず感染は広がりますので、是非、飲食の機会には最大限注意を払っていただくということをお願いしたいと思います。

当然、それぞれの地域での感染状況、私どももデータを日々見ていますし、また各県とも感染の状況、何かクラスターが大

きく発生したような地域とは連絡を取り合っていますので、そこで何か火種が見つかれば、時短の要請を行うとか、あるいはそれがよりひどい状況になってくれば、まん延防止等重点措置というものもあるわけでありますので、それら都道府県と緊密に連絡しながら。去年もこの3月に感染が拡大したわけですので、とにかく3月、4月、5月と徹底した感染防止策をやっていければと思いますし、モニタリング検査が、解除した地域では始まりましたので、首都圏を除いて関西圏、中京圏、福岡、岐阜が、栃木に続いて先週末から始まりましたので、しっかりと検査を繁華街などでやりながら、そして何か兆しをつかめば、迅速に対応していければと考えているところです。

ありがとうございました。